

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:31.

看護師による手術部位確認が患者にもたらす影響

錦戸 沙耶, 寒川 晶代, 永沢 奈緒美

看護師による手術部位確認が患者にもたらす影響

旭川医科大学病院手術部ナースステーション ○錦戸沙耶、寒川晶代、永沢奈緒美

[目的]手術室入室時における手術部位確認が患者に与える影響について明らかにする。

[方法]全身麻酔下手術を受け、術後会話でのコミュニケーションが可能な成人15名。術後対象者にインタビューガイドをもとに半構成的面接法で面接を行い、逐語録を作成しカテゴリーに分類した。

[倫理的配慮]A病院倫理委員会の承認を得て実施した。

[結果]インタビューより22のコード、7のカテゴリーに分類した。カテゴリー内容は【誤認防止対策の必要性の理解】 【手術に対する強い

覚悟・思いにより影響が少ない】 【手術の受容・決意を促す】 【強い不安により何も感じない】 【確認行為に対する疑問】、【答えにくさによる戸惑い】、【環境因子による心理的動揺】であった。

[考察]当初、手術部位確認時の戸惑いの表情や涙を流す様子に着目していたが、本研究では手術部位確認を肯定的にとらえた患者が過半数であった。患者にとって、手術部位確認が安心感や手術の決意を促すという結果から、手術室看護師は手術部位確認に積極的な態度で臨む必要がある。その一方で確認行為に対して疑問や戸惑い、環境因子による動揺を生じる患者がいることを認識し実施することも重要であると考えられる。